

行政の窓

カラマツを使用したCLTの施設について

CLT（クロス・ラミネイテッド・ティンバー：直交集成板）は、ひき板を直交方向に重ね合わせて接着した新しい建築部材です。1990年代にオーストリアで開発され、現在、欧米を中心に中・大規模の集合住宅や商業施設の床・壁などに構造パネルとして用いられ、急速に普及しています。

CLTは、従来の木造よりも強度・寸法安定性・断熱性・施工性等が優れており、マンションなどの中高層建築物に活用することにより、新たな木材需要の創出が期待されています。

農林水産省では、国産材を用いたCLTの実用化に向け、平成26年1月に直交集成板のJAS（日本農林規格）を制定しました。また、現段階ではCLTに関する建築関係基準が未整備で、施設の設計には国土交通省の個別認定が必要となっているため、平成26年11月に林野庁と国土交通省が「CLTの普及に向けたロードマップ」を作成し、基準強度や生産体制の整備などを計画的に進めることとしています。

国内では、平成26年3月にスギのCLTを使用した国内初の施設（3階建の集合住宅）が完成しています。

一方、道内では国の森林整備加速化・林業再生基金を活用した取組として、平成27年2月に札幌北3条広場で開催されたイベントにおいて、道産カラマツのCLTを使用したイベント用仮設店舗が設置されました。今後、劣化や変形等のデータを収集するとともにイベント等で活用し、CLTの普及・利用拡大を図ることとしています。

また、北見市においては、基金事業を活用しカラマツのCLTを使用した国内初の建築物（セミナーハウス）が建設されており、平成27年3月末に完成予定となっています。



仮設店舗



セミナーハウス建設工事

（1階部分組立）

【セミナーハウス 概要】

- 1 建設地 : 北見市留辺薬町旭東11番地
- 2 事業主体 : 協同組合オホーツクウッドピア
- 3 床面積 : 1階: 70.4㎡ 2階: 72.8㎡
総床面積: 143.2㎡
- 4 構造 : 道産カラマツ大判CLTパネル構造
(最大2,700mm×6,000mm)
- 5 使用CLT : 5層5プライ、7層7プライ
38枚 75㎡
- 6 接合方法 : U型金物、ビス接合(国内初)
- 7 内装仕上げ : カラマツCLT 現し仕上げ(国内初)

(水産林務部林務局林業木材課 需要推進グループ)